

第三回経営企画会議の審議結果について

《審議項目》

平成 21 年度当初の組織再編（案）について

《審議結果》

- ・ 継続検討。
- ・ 別紙資料の取扱いについては、知事から、
 - ① 組織編成の考え方・コンセプトの明確化
 - ② 部局横断的な調整機能のあり方
 - ③ 部長の管理スパン、今後の人事評価のあり方との関係
 - ④ 現場主義

の観点から、検討を継続する旨の指示があったため、現段階では、「未定稿」とする。

平成21年度当初の組織再編（案）について

検討の視点

- 「大阪維新」プログラムの強力な推進体制の確立
- 府政の課題に的確に対応するための効率的な組織体制
子育て、医師不足などへの機動的な対応を行うための管理スパンの見直し。
子ども施策の集約化、大阪ミュージアム構想の推進体制、総合的な治安対策の推進体制。
- 意思決定の迅速化のためのスリムな組織体制
部局の数は増やさない。既存の室の削減を進める。
- 府民にとってわかりやすい組織体制
府民が組織名から担当している業務がわかるような名称とする。

組織再編の概要

- 健康福祉部を府民福祉部と保健医療部に再編。府民福祉部に子ども局を設置
子育て、医師不足・救急医療などへの機動的な対応を行うため、健康福祉部を福祉分野と保健医療分野に分ける。福祉分野と、生活文化部の府民生活に身近な分野を合わせ、府民福祉部とする。生活文化部と健康福祉部の子ども施策を集約化し、府民福祉部に子ども局を設置する。
- 生活文化部とにぎわい創造部の統合
大阪を内から元気にし、輝きを外に発信するため、生活文化部とにぎわい創造部を統合することにより、文化にぎわい部を設置し、大阪ミュージアム構想をはじめ、イルミネーション、水都大阪の実現などを強力に推進する。
- 総合的な治安対策の推進体制の整備
政策企画部に総合的な治安対策の推進について企画、総合調整を行う体制を整備する。総合的な治安対策は、危機管理監が、危機管理とあわせて担当する。
名称は仮称

検討課題

- 私学を含む教育行政の推進体制

